

見えない水に感謝して

川口市立上青木中学校 二年 宮村 霞

「いただきます」だれもが食事の前に言うこの言葉には、色々な人やものへの感謝の気持ちが込められている。料理を作ってくれた人に、食材を届けてくれた人に、育ててくれた人に、食材に。そして、水にもその気持ちを向けるべきだと、私は二年前に知った。

きっかけは、地球の問題について調べる学習テーマ決めをしたときだ。参考資料にいくつかのテーマがある中で、私は“食べ物と水”というテーマに強くひきつけられた。今まで、エネルギーやゴミについての問題はよく見かけ、考える機会もあったが、食べ物や水についての問題はあまり関わってこなかったからだ。自分のとても身近な存在である食べ物と水にどんな問題点があるのだろうか。そんな疑問が浮かび、私は“食べ物と水”をテーマに調べ学習を始めた。学習を進めていくと、世界には飢餓に苦しむ人達が八億人以上もいることや、それなのに日本では食べられる食品を大量に捨ててしまっていること。また、かつて日本で起きた、水の汚染が原因の様々な公害病が、今途上国で発生していることなどが分かった。このような食べ物と水をめぐる様々な問題を調べていくなかで、私は仮想水についての話がとても印象に残った。

仮想水とは、食料などを外国から輸入する際、その生産に必要な水も輸入したことになる、という考え方で計算された水のことだ。例えば、外国から牛肉一キログラムを輸入したとすると、その牛肉を生産するために使用された約二十トンもの水も同時に輸入したことになるそうだ。外国から多くの食べ物を輸入している私達の国は、水もまた、たくさん輸入しているということだ。私が外国産の食べ物を食べることは、世界の水をいただくことなのだ。そのことを知り、私はとても申し訳無い気持ちになった。なぜなら、食べ物を欲張って食べたり、残してしまったり、そんな私の行動で世界の水は何トンという単位で

無駄になっていたからだ。私は十三年間で、いったいどのくらいの水を無駄にしてきたのだろう。その水で、どのくらいの人を救うことができたのだろう。

仮想水を通して、私はこれまでどこか他人事のように思っていた世界の水不足と自分が、無関係でないことが分かった。そして同時に、私たちの食生活でいかに水が大事なのかに気づいた。目には見えないけれど、食べ物にはたくさん水がある。水があるからこそ私たちは食べ物を食べられる。だから私は、「いただきます」という言葉には人や食材への感謝だけではなく、水への感謝も込めるべきだと思った。

それから二年がたち、小学六年生だった私は中学二年生になった。小学校から中学校へ変わったことで、私の生活も大きく変化し、とても忙しくなった。勉強や部活や習い事、他にも多くのものに追われる日々だ。しかし、食卓につき食べ物を見ると、どんなに忙しいときも人や食材や水のことを考える。そして、感謝する。特に水には、今までできていなかった分、皆さんの思いを込め私は今日も言うのだ。「いただきます」と。